

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ひとり暮らしの人は別にして、たぶんみなさんの家にテレビはあるんじゃないかな。今はテレビが当たり前の生活になっているけれど、放送が始まったのはもうずっと前、まだ戦後と呼ばれていた時代のことだ。

それまで国民の情報源はラジオだった。人々はラジオを通して、※真珠湾攻撃を知り、戦争に負けたことを知った。

もちろん戦後もラジオ放送は続いた。戦争の※後遺症で日々の暮らしもままならない中、ラジオは情報源であると同時に、生活に潤いを与える娯楽でもあったんだ。ラジオは映像がないため、音がすべてだ。だから人々は聞き漏らすまいと、自然と神経を集中することになる。家族がみんなでラジオのそばに集まる光景が、当時は日本中で見られたんだ。

ところが一九五三年に音声だけでなく、映像も届けられるテレビ放送がスタート。ラジオは次第にお茶の間の主役の座をテレビに譲ることになる。

始まったばかりの文化に豊かな才能が流れ込み、意欲的な実験が繰り返されるのは歴史の常だ。※ドキュメンタリーの分野では作り手のメッセージをぶつける熱いものや、実験的、※前衛的な手法をとりいれた作品がたくさん生まれたし、ドラマやバラエティーも※タブーをあえて破ろうとしているかのような自由さがあつた。何より作り手たちのなかに、自分たちは①時代をつくっているという使命感が強烈にあつたのだと思う。

ところが子どもたちは少々羽目を外しても大目に見てもらえるけれど、大人になったら社会の目がうるさくなるように、テレビはその影響力を増すにつれ、②お行儀よく振る舞うことを求められるようになった。

かくしてテレビは文化の担い手としての意識をだんだんと失

っていく。そしてそれと並行するかのようには、ニュースとスポーツ、ドラマとバラエティーというメニユーをそろえた大衆娯楽を提供する一大産業となり、テレビ局同士で激しい視聴率競争を繰り広げることになる。さらにはインターネットといった新しいメディアが誕生すると、どうしたらテレビに客を引きつけられるのか、どうしたら視聴者を逃さないか、もつと言えはどうしたらチャンネルを変えられないかという意識を、作り手はより強く持つようになっていく。

そうすると、何が起きるのか。

一部の人間だけが興味を持つものではなく、できるだけ多くの視聴者が見たいものを放送しようとするようになるだろう。そのほうがいいに決まっている、一部の人間だけが興味を持つものよりも、多くの人が見たいと思う※普遍性をもつ番組のほうがいい。そう考える人もいると思う。

でも、ものごとにはいつも別の顔がある。この場合でいえば、③多くの視聴者が見たいと思うものを放送しようとすることの持つ、もうひとつの側面だ。

多くの視聴者が見たいものとはなんだろう。人間はひとりひとり違う。生まれ育った環境も、何に興味を持っているかも、どれだけの理解力を持っているかという知的水準も、誰一人同じではない。

④そんな状況で出来るだけ多くの人に見てもらうには、どうすればいいだろう。

一番簡単なのは、人間が持つ共通の要素を盛り込むことだ。人間はひとりひとり違うけれど、誰もが持っている共通項もある。A好き嫌いはあっても、食事をしない人はない。そう考えると、グルメ番組がこれだけたくさんあるのもうなずけるだろう。

恋愛はどうだろう。こちらも好みは多様だけれど、多くの人

が自分のこととして興味を抱けるテーマに違いない。かくして恋愛ドラマから、カップルを誕生させるバラエティーまで、恋愛を盛りこんだ番組がない日はないほどだ。

そう考えてくると、多くの人の興味を引き付けられるのは、人間の「本能」や「感情」に訴える要素が含まれる番組と云えるのではないだろうか。ニュース番組でも強烈なキャラクターを持つ容疑者がいれば、それほど大きな事件でなくても、多くの時間をさいて映像を見せることになる。B ※スキヤンダラスな愛憎劇も、※ワイドショーのかっこうのネタだ。

面倒な説明なしに、わかってもらえるもの。
これこそテレビの大好物なのだ。

テレビのチャンネルを変えるとき、みんなはリモコンを使うよね。昔、まだリモコンがなかったときは、わざわざテレビのそばまで行って、チャンネルを変えていた。とすると面倒だから、あまりチャンネルを変えようとしな。C、リモコンだと指先ひとつだから、退屈ならすぐにチャンネルを変えるようになる。しかも今やテレビの視聴率は一分おきに数字が出て、グラフとして表すようになっていいるから、どうしたら一瞬たりとも興味を逃さない作りをするかを、常にテレビマンは考えなければならぬと言ってもいい。一種の※強迫観念のように。そうすると複雑なもの、わかりにくいものが排除されていくのは、自然な流れだろう。

もちろん例外はある。複雑な深いテーマに果敢に挑む意欲的な番組もある。しかし限られた予算と時間、限られた人手のなかで視聴率という結果を出すためには、わかりにくいものには背を向けがちだ。そしてもし取り上げるなら、途中の面倒なプロセスはやめて、結論だけ示していく。これはこうだからこう、くらいなら視聴者はついてきてくれるかもしれない。
※池上彰さんがこれだけ引つ張りだこなのは、複雑に見えるも

のを「要するにこれは、こういうことだ」と、平易な言葉で説明する類いまれな能力の持ち主だからだ。

⑤最近、ニュース番組を見てもバラエティー番組を見ても、画面に文字がたくさん出てくる。テレビの用語で文字スーパードというんだけど、耳で聞けばわかるものも重ねて文字スーパードを出す。それも色とりどりの大きな文字で。

テレビだけに集中している人は少ない、どうせ何かしながら見ているのだから、音と文字の両方があったほうがわかりやすいと思う人もいるだろう。でも個人的な意見を言わせてもらうと、今の状況は過剰だと思う。

わかりにくいものは避けて、シンプルなものを取り上げる。しかもさらに親切にも音だけでなく、大きな文字も出していく。視聴者ができるだけ考えなくてもすむように、⑥おせっかいなまでに親切心を発揮しているように見える。

そしてそれに慣れてくると、視聴者も忍耐力を失っていく。複雑なものには耳をかさず、結論だけを求めるようになってくる。ぼく自身も例外ではない。説明がわかりにくかったりするとテレビ画面に向かってぶつぶつと文句を言っているし、要するに何なの？と結論を性急に求めてしまう。テレビをつけても、しよつちゅうスマホをながめている。面白くないと、すぐにリモコンで※ザッピングを始める。やれやれだ。

複雑なものを聞く忍耐力を失わせる犯人は、テレビだけではない。ネットではさらにわかりやすい※センサーショナルな見出し競争が繰り広げられているし、※フェイクニュースに「いいね」を押している人の多くは、本文を読んでいなかったという調査もある。電車で本を読んでいる人をみかけるのは、まれだ。多くの人は、スマホの画面を通して一瞬で流れ去る※タイムラインをながめている。D はついているのかもしれない。しかしその一方で、ぼくたちはE を失いつつあ

るのではないだろうか。

(松原耕二 『本質をつかむ聞く力』 一部改変)

※(文中のことばの意味)

真珠湾攻撃 : 日本軍が、ハワイのアメリカ軍の基地があった真珠湾をおそい、太平洋戦争の始まりとなった攻撃のこと。

後遺症 : 後々まで残る、事件や出来事の影響。

ドキュメンタリー : 事実でないことを事実らしく仕組むのではなく、記録にもとづいて作ったもの。

前衛的 : 時代に先がけていること。

タブー : 社会的に厳しく禁止されていること。ふれたり口に出したりしてはならないとされるもの。

普遍性 : すべての場合にあってはまる可能性。一般性。

スキヤンダラス : よくないうわさや聞き苦しい評判として、とりあげられるようなさま。

愛憎劇 : 愛と憎しみが複雑にからみあつた物語。

ワイドショー : 芸能情報を中心にニュースや生活情報など幅広い内容を伝えるテレビ番組。

強迫観念 : 考えまいとしても絶えず心を支配して頭からはなれない考え。

プロセス : 過程。経過。

池上彰 : 日本のジャーナリスト、記者。

ザッピング : テレビ視聴において、リモコンでチャンネルを頻繁に切りかえながら視聴すること。

センセーショナル : 人の気持ちをあおりたてるさま。

フェイクニュース : うその情報でつくられたニュースのこと。

タイムライン : SNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)の略。インターネットを用いた、コミュニケーション型のサービス。などにおいて、投稿を時間にそって並べて表示したもの。

問1 A C において、最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア たとえば
- イ したがって
- ウ あるいは
- エ ところが

問2 線①「時代をつくっているという使命感」とありますが、これと同じ意味の表現を文中から十二字でぬき出しなさい。

問3

——線②「お行儀よく振る舞うこと」とありますが、
どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一
つ選び、記号で答えなさい。

- ア 誰が見ても面白いと思えるものだけを放送すること。
- イ 作り手の熱い思いがこめられた番組を作ること。
- ウ 社会の人々から非難されないようなものを作ること。
- エ チャレンジ精神にあふれた番組を作り続けること。

問4

——線③「多くの視聴者が見たいと思うものを放送し
ようとするこの持つ、もうひとつの側面」とありますが、
どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一
つ選び、記号で答えなさい。

- ア 恋愛や食事など人間が持つ共通の要素を含んだ、高い視
聴率をとれる番組しか残らないということ。
- イ 複雑なものやわかりにくいものを避けて、説明がなくて
もわかってもらえるものが好まれるということ。
- ウ テレビの作り手側の意識がより一層、どうしたら視聴者
を逃さないかということに向けられてしまうこと。
- エ 少しでもわかりやすいものを放送するために、複雑なこ
とを平易な言葉で説明できる出演者が求められること。

問5

——線④「そんな状況で出来るだけ多くの人に見て
もらうには、どうすればいいだろう」について、次の問い
に答えなさい。

- (1) 「そんな状況」とは、具体的にどのような状況か。最も
ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 生きてきた環境やその中で身につけてきた興味や理解力
などが人によって違う状況。
- イ テレビ局同士の視聴率争いが激しくなるとともに、新し
いメディアが生まれている状況。
- ウ 多くの人が見たいと思う普遍性をもつ番組こそが優れて
いると考えられている状況。
- エ テレビがニュースやスポーツ、ドラマ、バラエティーな
ど、多くのメニューを提供する状況。

(2)

「そんな状況で出来るだけ多くの人に見てもらう」ため
に、筆者はどのようなことが必要だと考えていますか。「
」を作ること」につながるように文中から二十五字でぬき出
しなさい。句読点なども字数に数えます。

問6

——線⑤「最近、ニュース番組を見てもバラエティー
番組を見ても、画面に文字がたくさん出てくる」とありま
すが、なぜですか。「
」から」につながるように文中から
二十字でぬき出しなさい。句読点なども字数に数えます。

問7 ー線⑥「おせっかいなまでに親切心を發揮しているように見える」とありますが、ここに筆者のどのような考えが読み取れますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア シンプルなものを扱うのは、テレビ局が視聴率を確保するためには仕方がないという考え。
- イ 視聴者が余計な労力を使わずにすむ工夫がされていることは、ありがたいという考え。
- ウ 音声だけでなく大きな文字でも放送してくれることは、適切な配慮だという考え。
- エ わかりにくいものに視聴者が触れないようにする工夫は、不必要であるという考え。

問8 D・E にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 複雑なものとを聞く忍耐力と能力
- イ 多くの情報から結論だけを正確に読み取る能力
- ウ 自分に必要な情報を選びぬく判断力
- エ 新しい刺激に対して反射的に反応する能力
- オ 複雑なことを平易な言葉で説明する能力

問9 〰〰〰線「それまで国民の情報源はラジオだった」とありますが、ここでラジオについてとりあげること、どのような効果がありますか。文章全体をふまえて、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 情報源であり娯楽でもあったラジオをとりあげること、戦後の人々にとってラジオは家族が集まる場所となっていたことを強調する効果がある。
- イ 音だけの放送で人々が自然と集中して聞いていたラジオをとりあげること、現在の人々がテレビに集中せずに視聴していることを印象づける効果がある。
- ウ テレビが登場する以前の情報源であったラジオをとりあげること、現在のテレビのある生活がいかに特別であるかを読者に気づかせる効果がある。
- エ 映像のない放送であるラジオをとりあげること、後に登場するテレビが当時の人々にとって魅力的なものであったことを想像させる効果がある。

問10 この文章につけるタイトルとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア テレビのある生活は当たり前ではない
- イ 結論だけでなく、話の全体像に耳を傾けよう
- ウ テレビは「聞く力」をどう変えたか
- エ 複雑なものとを理解するためには

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

逸騎、丹華、燦空の三きようだいは、「パンの阿藤」を営む両親と共に店の二階を自宅にして住んでいた。しかし、一九九五年一月十七日に起こった阪神淡路大震災で、その家が倒壊・焼失し、同時に両親を亡くした。そんな三きようだいを助けてくれたのは、近所で「心の診察をする」という心療内科の医者をしてきたゼロ先生（佐元良是明）だった。これをきっかけに、ゼロ先生は三きようだいを引き取って養子にし、※仮設住宅で一緒に暮らすようになる。震災の日から二年と二か月が経ち、春休み明けには、逸騎は小学六年生、丹華は四年生になり、燦空は保育園の年長組に入るようになっていた。

三月になって最初の日曜日。朝から冷たい雨が降っていた。がらんと空っぽになった、仮設住宅の一室。ゼロ先生、逸騎、丹華、燦空が、「ご近所さん」の佐々木のおばちゃんを囲んでいた。

※おばちゃんは、その日、仮設住宅を出て、新しく造られた復興住宅に引っ越すことになっていた。

※家族を震災で失って、ひとり暮らしだったおばちゃんは、神戸市が用意した住宅への入居が決まったものの、なかなか仮設を出ようとはしなかった。震災以来、ともに助け合っただけで暮らしてきた仮設の仲間たちを、新しい家族のように感じていたからだ。

おばちゃんが入居予定の住宅は、長らく慣れ親しんだ長田の街ではなく、※六甲山の西側、神戸市北区に造られたものだった。

知らないところでひとりっきりで暮らすのは不安だと言うお

ばちゃんの代わりに、ゼロ先生が市にかけ合ってみた。長田区内に造られる復興住宅に、どうにか入居をさせてあげられませんか？ と。

しかし、何度かけ合っても、役所の返答はいつも一緒だった。

① お気持ちには、ようわかります。せやけど、同じように思っている方が何百人といはるんです。ひとりの人の言うことを受け入れてしまいたら、ほかの何百人の言うことも聞き入れなアカンようになってしまふんです。

みなさん、がまんしてくれてはります。……佐々木さんも、なんとかがまんしてもらえませんか？

再三にわたった交渉がうまく運ばず、うなだれるゼロ先生に、② 佐々木のおばちゃんは、もうじゅうぶんや先生、と言った。

——私、ひとりでもやっていけるわ。心も体も、けつこう丈夫なほうやし……。震災のおかげ、言うたらおかしいけど、鍛えられた思てんねん。

わがまま言うてしても、ほんまに、すみません。いらん仕事を、先生にさせてしもて……。

せやけど、あきらめんとお役所にかけてくれはった先生の気持ち、ほんまにうれしかった。

※先生のこと、佐元良三きようだいのこと……この仮設の人らのこと、私、一生忘れませんわ。

そうして、仮設の仲間全員で準備を手伝い、引っ越し当日を迎えたのだった。

「おばちゃん。これ、プレゼント。兄ちゃんとあたしが作ってん」

小さな紙袋を、丹華がおばちゃんに手渡した。

「ほんまに？ なんやろ、開けてもええか？」

おばちゃんが訊く。逸騎と丹華は、同時にうなずいた。紙袋

の中から、くまやハートのかたちをしたパンが出てきた。

「うわあ、えらいかわいいやんか。これ、ふたりで作ったんか？」

「そやねん。※ゆい姉んちのオーブン借りてな、作らせてもらったんや」

逸騎が、ちよつと得意げに答えた。丹華も①すかさず説明をした。

「そやねん。まえから一回、パン作ってみたかってん。せやけど、オーブンがなかったし、でけへんかってん。そしたら、ゆい姉がな、うちにきて作ったら？ っつて、言うてくれてん」

きのう、逸騎と丹華は、※三宮の由衣の自宅を訪ねていき、佐々木のおばちゃんのためにパンを作らせてもらった。

パンやケーキを作るのが得意な由衣の母と由衣が手伝ってくれたおかげで、ふつくらとつややかなパンが完成した。

試食をした由衣と由衣の母は、おいしいおいしいと絶賛してくれた。「きつとおばちゃんも喜んでくれるよ」と、由衣の②お墨付きももらったのだった。

「わしも、一個毒味させてもろたけど、けっこうイケるで」

ゼロ先生が言うと、「毒味言うなや」と、逸騎が先生をにらんだ。おばちゃんは、うれしそうに目を細めて、

「そうか、そうか。③あんたらが、ふたりで……何よりのプレゼントや。おおきに、ありがとう」

ふたりに向かって、ていねいに頭を下げた。逸騎も丹華も、ちよつと照れて、笑顔になった。

「おばちゃん、これあげる」

今度は、④燦空が丸めて赤いリボンをつけた画用紙を差し出した。

「え？ サンクちゃんも、おばちゃんにプレゼントくれるんか？」

リボンを解いて画用紙を広げると、クレヨン画が現れた。ゼ

ロ先生らしきメガネとひげのおじさんと、男の子とふたりの女の子が、笑顔で手を振っている絵。

「わあ、上手やなあ。サンクちゃんが描いたんか？」

うん、と燦空がうなずいた。そして、言った。

「おばちゃんが、いつでも、※おっちゃんとか、兄ちゃんとか姉ちゃんに、会えるようにっつて。あ、あと、サンクにも」

おばちゃんは、じいっと絵をみつめていたが、あわててメガネを外すと、指先で両目をこすった。

「ありがどうな。……みんな、ほんまに……ありがと……」

うるんだ声で言うと、三きようだいを両腕で抱き寄せた。

丹華は、おばちゃんの首にしっかりと抱きついた。うう、うう、とおばちゃんの泣き声を聞くうちに、胸のずつと奥が熱くなって、鼻の奥がつんとして、涙がじわつとにじんできました。

いつも、いつも、やさしかったおばちゃん。

⑤かぼちやの煮付けとか、きゅうりの漬物とか、毎日、毎晩、「作り過ぎてもうたわ」と、笑顔で持ってきてくれた。

作り過ぎなんかじゃない。いっだって、丹華たちのことを心にかけて、余分に作って持ってきてくれたのだ。

ゼロ先生が帰ってくるまで、一緒に過ごしてくれたこともしよつちゅうだった。ゼロ先生がどうしても燦空を迎えにいけないときは、代わりに行ってくれたことも。

——さびしいこともあるかもしれへんけどな、ニケちゃん。あんたらは、ひとりやないんやで。

ゼロ先生がいてくれる。おばちゃんも、仮設のみんなも、いつともあんたらのこと見とおねんで。

それから、あんたらのお父ちゃんもお母ちゃんも、姿かたちは見えんでも、あんたらとずうつと一緒についてくれとおんやで。

だから、あんたらは、大丈夫。何も気にせんと、ようけ遊んで、ようけ勉強して、ようけ食べて、ようけ眠って……大きな

るんやで。

そんなふうに言って、丹華たちきょうだいを元気づけてくれた。

そのおばちゃんに、もう会えなくなる。

昨日までは、「また会えるよ」と由衣に言われたし、ゼロ先生にも「しよつちゆう遊びにきてくれはるわ」と言われたので、会いたいと思っただけですぐにでも会える、と安心してた。

でも……。

今日から、向かいの部屋は空っぽになる。おばちゃんの笑顔は、もうそこにはない。

いつも漂^{たふよ}っていた、お味噌汁^{みそし}や煮物のいいにおいは、そこからはもうしなくなるのだ。

おばちゃん。なんで行ってまうの？

行かんとして。ずっとここに、仮設におって。

⑥ 丹華は、そう言いたかった。けれど、言わなかった。

そんなことを言ったら、おばちゃんが困ってしまうと知っていたから。

言葉にできないぶん、丹華は、おばちゃんに抱きしめられて、思い切り泣いた。

丹華につられて、燦空も泣き出した。逸騎も、[©]しきりに腕で目をこすった。

ゼロ先生は、うるんだ目で、しっかりと抱き合う四人を、ただ静かに見守っていた。

(原田マハ 『翔ぶ少女』 一部改変)

※(文中のことばの意味)

仮設住宅 : 地震などの自然災害により、住める家を失い、

自らの資金では住宅を新たに得ることのできない人に対し、行政が貸し出す仮の住宅。

復興住宅 : 行政が整備し、被災者に安い家賃で貸し出す

住宅。災害で自宅を失った被災者が仮設住宅を退去した後に住むことができる。

長田 : 兵庫県神戸市の中南部に位置する区。

六甲山 : 兵庫県神戸市の、市街地の西から北にかけて位置する山。

佐元良三きょうだい : 逸騎、丹華、燦空のこと。

ゆい姉 : 由衣。ゼロ先生と共に心療内科の医者をしており、時折三きょうだいの面倒も見ている。

三宮 : 兵庫県神戸市中央区にある地域。

おっちゃん : ゼロ先生のこと。

問1

~~~~~線①②③のことばについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① すかさず

- ア 静かに
- イ 堂々と
- ウ はつきりと
- エ すぐに

② お墨付き

- ア 応援おうえん
- イ 許可
- ウ 保証
- エ 忠告

③ しきりに

- ア 何度も
- イ 少しだけ
- ウ ひかえめに
- エ 強引ごういんに

問2

——線①「お気持ち」とありますが、だれの、どのような気持ちですか。文中のことばを使って、四十字程度で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問3

——線②「佐々木のおばちゃんは、もうじゅうぶんや先生、と言った」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ゼロ先生にこれ以上の負担はかけられないという思いとともに、自分のためにゼロ先生が力をつくしてくれたことがうれしかったから。

イ ゼロ先生が何度も交渉してくれたにもかかわらず、対応を変えようとしない役所に腹が立つとともに、これ以上の進展はないと見切りをつけたから。

ウ ゼロ先生が繰り返し役所にかけて合っても希望が通らなかったことから、自分勝手な考えだったと気づかされ、わがままな自分を反省したから。

エ ゼロ先生や仮設の仲間と暮らしてきたおかげで、少し時間がかかったものの、自分ひとりでも暮らしていけるといふ自信が持てるようになったから。

問4

——線③「あんたらが、ふたりで……何よりのプレゼントや」とありますが、この時の佐々木のおばちゃんの気持ちとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 逸騎と丹華がこれからさらに成長していく姿を見られないことを実感して、さびしい気持ち。
- イ まだ幼い逸騎と丹華が、わざわざプレゼントを用意してくれたことを申し訳なく思う気持ち。
- ウ 逸騎と丹華が張り合いながらも協力してパンを作った姿を想像して、ほほえましく思う気持ち。
- エ 逸騎と丹華が自分たちでパンを作ってくれた姿から、ふたりの成長を感じられて喜ばしい気持ち。

問5

——線④「燦空が丸めて赤いリボンをつけた画用紙を差し出した」とありますが、このプレゼントには燦空のどのような思いがこめられていますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア これまで一緒に過ごして、面倒を見てくれた佐々木のおばちゃんへの感謝とともに、いつまでも自分たちのことを忘れないでほしいという思い。
- イ ひとり暮らしをする佐々木のおばちゃんがさびしい思いをしないで済むように、自分たちがいつでもそばにいたいと感じてほしいという思い。
- ウ 自分たちにとって家族のような存在である佐々木のおばちゃんが引越してしまふことが悲しく、本当は離れて行かないでほしいという思い。
- エ ひとりで新しい土地に行くことになる佐々木のおばちゃんに、自分たちはいつでも仮設住宅で待っているから、戻ってきてほしいという思い。

問6

——線⑤「かぼちゃの煮付けとか、きゅうりの漬け物とか、毎日、毎晩、『作り過ぎてもうたわ』と、笑顔で持ってきてくれた」とありますが、佐々木のおばちゃんがあるような行動をとったのはなぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 今まで家族と過ごしていた名残で、料理をつい多めに作ってしまい、ひとりで食べきれぬ量ではなかったから。
- イ 両親を失い、忙しいゼロ先生との生活でさびしい思いをしているだろう三きようだいのことを気づかっていたから。
- ウ 自分と同じように家族を失った三きようだいの面倒を見ることで、自分のさびしさをまぎらわせたかったから。
- エ 仮設の仲間たちに自慢の手料理をふるまうことで、少しでも人の役に立ち、自分の居場所を作りたいと思ったから。

問7

——線⑥「丹華は、そう言いたかった。けれど、言わなかった」とありますが、ここから丹華のどのような性格が読み取れますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 甘えたい気持ちを持ちながらも、相手を気づかかって自分をおさえる、優しい性格。
- イ 自分の思い通りにならないと感情的になってしまふ、わがままな性格。
- ウ 周囲の人に迷惑をかけないように生きていこうとする、自立心の強い性格。
- エ 人目ばかりが気になり、自分の意見をはっきりと他人に伝えられない性格。

問8

文章全体から三きようだいと佐々木のおばちゃんほどのような関係であると読み取れますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 別れを悲しむほどに相手のことを特別な家族のように思いつつも、お互いの明るい将来を期待して応援し合える前向きな関係。
- イ お互いにつらく厳しい震災を経験したが、協力して乗り越えてきたことで、本当の家族のように絆を深めることができたと言える関係。
- ウ 震災で家族を失った悲しみを共有し、慰め合って生活する唯一無二の存在だと感じ、心を開いて接することができ、親友同士のような関係。
- エ 仮設住宅に暮らす仲間としてお互いにかけてあげない存在だと思いつつも、実際はあくまで他人であるという意識もあつて、遠慮が見え隠れする関係。

問9

次のア～カは、この文章に書かれた出来事です。古い出来事から順に並べかえなさい。

- ア 佐々木のおばちゃんが仮設住宅から復興住宅へ引っ越すことを決める。
- イ ゼロ先生が役所へ交渉に行く。
- ウ 逸騎と丹華が由衣の家でパンを作る。
- エ 三きようだいが佐々木のおばちゃんにプレゼントを渡す。
- オ 佐々木のおばちゃんが料理を差し入れてくれる。
- カ 佐々木のおばちゃんと三きようだいが抱き合つて、別れを惜しむ。

問10 この文章の表現について説明したものととして、ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「朝から冷たい雨が降っていた」というはじめの情景描写が、三きようだいと佐々木のおぼちゃんの別れが涙にあふれた様子になることを暗示している。

イ 佐々木のおぼちゃんを「ご近所さん」とカギカッコつきで表現していることから、三きようだいにとって単なる近くに住む人ではなく、共に震災を経験してきた特別な存在であることがうかがえる。

ウ カギカッコ(二)で示されている部分は登場人物たちの現在の発言であるのに対し、ダッシュ(――)で示されている部分は過去の発言だと分かるように区別されている。

エ 文章全体を通して、登場人物たちのことばに方言を用いることで、神戸の土地で震災を乗り越えようとしている姿に現実味を持たせることができる。

③ 次の文の——線部のことばについて、同じ使われ方のものをあとの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 京都の夏は異常な暑さだ。  
ア いつのまに終わってしまったのか。  
イ あそこは観光客の多いお寺だ。  
ウ その消しゴムは私のです。  
エ 集合場所は学校の体育館だ。
- ② 桜がきれいに咲いている。  
ア 私は中国語が話せます。  
イ もうすぐ母が帰ってくるはずですよ。  
ウ 約束の時間を過ぎたが、まだ来ない。  
エ おいしいごはんが食べたい。
- ③ 私と友人は遊園地に行く約束をしている。  
ア 帰り道にふと不安になった。  
イ 「はい」と大きく返事をした。  
ウ 私は野球とサッカーが好きだ。  
エ 気がつくのと、辺りは暗くなっていた。
- ④ この授業が終われば食事の時間だ。  
ア ぼくが一番ほしいのはゲームだ。  
イ 祖父は七十才を過ぎても元気だ。  
ウ 今年の冬は思っていたより暖かだ。  
エ 先生にすすめられた本を読んだ。

- ⑤ 変装しても、すぐに気づかれるだろう。  
ア 手みやげを持って行くと、いつも喜ばれる。  
イ 校長先生が全校集会で話される。  
ウ 幼い子どもでも登れる山だ。  
エ 故郷の景色が思い出される。

④ 次の——線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① 働き方カイカクを進める。  
② 大雨ケイホウが発令される。  
③ 生命のキゲンを研究する。  
④ 神社のハイカン料をおさめる。  
⑤ 四字ジユクゴの意味を覚える。  
⑥ 貴重な意見をいただく。  
⑦ 集合時間に点呼する。  
⑧ 世界新記録を樹立する。  
⑨ 何でもかわいいと言う風潮がある。  
⑩ 容姿の美しい女性に見とれる。

これで問題は終わります。